

84

講師用テキスト

知財専任部署を設置し ニッチトップを目指す

特許取得のメリットと知財担当者の役割・活動範囲を理解する

医療・介護というニッチな分野でTOPを目指すために社内に知財専任部署を設置。その知財担当者の役割は、特許取得だけではなく、特許調査や特許の発掘など。



この動画のおさらい



●知的財産課の方針

知的財産課では、「知財の関係でお客様や社内の関係部署に迷惑をかけない」という基本方針のもと業務に取り組んでいる。また、知的財産課の業務は書類作成を中心とした地味な業務が多く、開発や営業の業務に比べると成果も見え難い。社内での信用・認知を得るために、コツコツと地道に業務を行い、小さな成果を着実に積み上げていくことを大切にしている。

●知的財産課の製品開発プロセスへの関わり

オージー技研(株)では、知的財産課が製品開発プロセスの中に入り込み業務を行っている。

成功ポイント

知的財産活動には、自らの活動が他の知的財産権を侵害しないように管理する「守り」と、自らが生み出した知的財産を独占できるよう権利化（例えば、特許化）することで、製品の付加価値の基となる知的財産を他者が模倣することを抑制する「攻め」との両面が重要です。これにより、他からの知的財産権に基づく攻撃を受けず、自社製品の高い付加価値を維持し続けることで、安定して長期間の利益を確保することができます。

本件は、社内の知財担当者が、「守り」と「攻め」の両面にわたって活動することで、オリジナル性に優れ、付加価値の高い製品を生み出し続けると共に、生み出された製品に関連したビジネスを発展させるための社内体制が整備されている点で、社内知財活動の理想的なモデルと言えます。

まず、知財担当者の製品開発会議への出席により、きめ細かく迅速な特許調査がなされています。この特許調査結果に基づいた確かな判断によって、他者の権利を侵害しない開発が実現しています。

そして、知財担当者が開発担当者と密接に協働し、製品開発により生み出された発明を見落とすことなく発掘することで、コア技術はもちろんのこと、それを支える周辺技術を含め、漏れのない権利化をおこなっています。これによって製品の付加価値を高めるオリジナル性を他者が模倣することを効果的に防止し、製品の付加価値を高年保持しています。

このように、知的財産管理での「守り」と「攻め」とのポイントを熟知した社内知財担当者が、開発の要所において侵害回避の方向を示しつつ、オリジナル性をもたらす発明を漏れなく権利化することによって、他社の追従を許さない製品作りを継続的に可能にしているのです。

高齢化社会において極めて重要な医療福祉機器分野で、このような模範的な知財活動は平成28年度「知財功労賞」にふさわしい取り組みであることを確信しました。



笠原弁理士
弁理士(特定侵害訴訟代理人)

川崎製鉄株式会社(現JFEスチール)にて、技術者として化学プラントや化学装置の技術解析及び建設を担当。1995年弁理士本試験合格。1997年笠原特許商標事務所(岡山市)設立。平成16年度日本弁理士会中国四国部会(現中国支部、四国支部)長。中小企業基盤整備機構中国本部アドバイザー、岡山商工会議所専門相談員及び岡山県知財総合支援窓口知財専門家等として、元企業技術者の経験を生かし中小企業の知財相談に幅広く対応している。



スタディーケースについて 以下の設問について考察しましょう。

1. 社内に知財担当者があるとどのようなメリットが期待できるでしょうか。

- 「知財権で事業を守る」という、開発者とは違う点で技術や製品をみることができる。
- 社外の知財専門家（弁理士等）に比べ、迅速かつ安価にコミュニケーションを図ることができ、また、会社の方針を反映した知財活動を行うことがより容易となる。

2. 社内のどのような場面に知財担当者が参加するとよいでしょうか。

- 技術レビュー会議
- 週次や月次の開発進捗報告
- 商品企画、開発企画

3. 知財担当者にはどのような役割が求められるでしょうか。

- 他社の知財リスクを把握して経営陣へ提言するとともに、競合他社へ権利行使可能な特許を取得したり、他社との知財関連問題を解決する。
- 技術レビュー会議で、事業で勝つための特許出願や他社特許調査のサジェスションを行う。
- 開発企画段階から参加して、特許出願や他社特許調査も開発日程に組み込む。
- 週次や月次の開発進捗報告会で特許出願や他社特許調査のサジェスションを行うとともに、知財の基礎知識を教育する。
- 開発設計で回避困難な他社特許がある場合には、実施許諾などライセンス取得の交渉を行い、設計の自由度を確保する。

MEMO

84

受講者用テキスト

知財専任部署を設置し ニッチトップを目指す

特許取得のメリットと知財担当者の役割・活動範囲を理解する

医療・介護というニッチな分野でTOPを目指すために社内に知財専任部署を設置。その知財担当者の役割は、特許取得だけではなく、特許調査や特許の発掘など。



この動画のおさらい



●知的財産課の方針

知的財産課では、「知財の関係でお客様や社内の関係部署に迷惑をかけない」という基本方針のもと業務に取り組んでいる。また、知的財産課の業務は書類作成を中心とした地味な業務が多く、開発や営業の業務に比べると成果も見え難い。社内での信用・認知を得るために、コツコツと地道に業務を行い、小さな成果を着実に積み上げていくことを大切にしている。

●知的財産課の製品開発プロセスへの関わり

オージー技研株式会社では、知的財産課が製品開発プロセスの中に入り込み業務を行っている。

MEMO



スタディーケースについて 以下の設問について考察してください。

1. 社内に知財担当者がいるとどのようなメリットが期待できるでしょうか。

2. 社内のどのような場面に知財担当者が参加するとよいでしょうか。

(参考事例) 技術レビュー会議

3. 知財担当者にはどのような役割が求められるでしょうか。

(参考事例) 他社の知財リスクを把握して経営陣へ提言するとともに、
競合他社へ権利行使可能な特許を取得したり、他社との知財関連問題を解決する。

MEMO